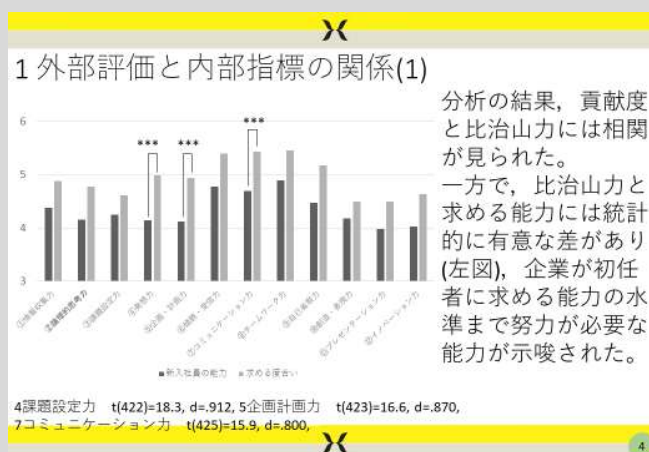


「比治山大学・比治山大学短期大学部研究開発センター」は、本学の理念・目的、教育目標及び各種方針の実現に向けて、教育の質保証と中長期的な計画を踏まえ、自ら点検・評価を行い、改善を支援する組織として、様々な取り組みを行っています。今号では、令和8年度に実施した取り組みの一部についてご紹介します。

外部評価と休退学についての分析と評価・IR部門の取組

＜外部評価からみる卒業生に求められる力量＞

本学を卒業した学生が社会で求められる力量が身に付いているか、またどういった能力がさらに育むことを求められているか明らかにすることを目的として、卒業生の就職先企業に対するアンケート調査の結果を分析した。過去4年分のデータ(422件)を対象に、本学の汎用的能力である4×3の比治山力の12のスキルそれぞれに対する「評価」と「求める度合い」を比較した。その結果、発想力、企画・計画力、コミュニケーション力の3つにおいて、「求める度合い」が「評価」を有意に上回っており、コミュニケーション力は他の能力と比べても高い評価ではあるものの、さらに育むことが求められていたり、発想力や企画・計画力はまだまだ伸びしろのある部分であることが明らかとなった。

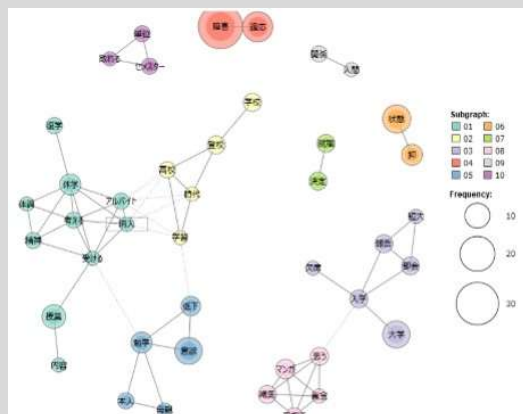


評価と求める度合いの比較

＜休退学の要因分析＞

これまで、休退学が起りやすい時期や学生の属性について分析を行ってきた結果、早い段階で学生の兆候を捉えるための観点を明らかにしてきた。今年度は、さらに休退学になる学生の理解を深めるために、各学科で1人1人の要因について具体的な異動理由を検討し、その内容を分析した。各学科から提供された事例は全部で137件であった。移動理由の詳細に記述された内容の頻出語は「障害(33件)」「適応(15件)」「意欲(12件)」「授業(9件)」「不安(7件)」「うつ病(6件)」といったものであった。休退学別に関連の高い用語をみると、「障害」「適応」「不安」「うつ病」「スペクトラム」「パニック」といった精神疾患等に関する用語が休学に多く見られた。また、共起ネットワークの結果から、精神疾患等と休学の関連だけでなく、高校時代からの特徴や勉学意欲の低下などとも関連がみられ、これらが予測因となる可能性が示唆された。つまり『対人面等からくる適応障害をどう予防するか』『勉学意欲をどう向上させるのか』という2つの要因が大きくはありと考えられ、前者にはUDLを、後者には協同学習や動機づけ理論を意識した授業づくり等が有用ではないかと考えられた。・「学校推薦型選抜」「総合型選抜」「一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜」の3つの入試形態により群に分けて、修得単位数やGPA、さらに本学の汎用的能力である4×3の比治山力(卒業時から入学時の数値を引いた成長度と卒業時時点の値)について、差を検証した。その結果、修得単位数やGPAは推薦型選抜群の学生の値が他の群の学生よりも有意に高い値を示していた一方で、比治山力については顕著な差が見られなかった。教員や企業の有識者の印象としては、入試形態によって学生の強みも違ったため、今回得られた結果との違いについて、今後も丁寧な分析をすることで、より適切に学生理解を進めていく必要があると考えられた。

休学		退学	
障害	.345	意欲	.119
適応	.155	大学	.102
状態	.145	決定	.091
不安	.085	就職	.091
抑	.085	低下	.089
うつ病	.073	入学	.073
授業	.073	学校	.071
スペクトラム	.049	部会	.071
パニック	.049	報告	.071
取れる	.037	問題	.071



要因の記述に関する分析結果

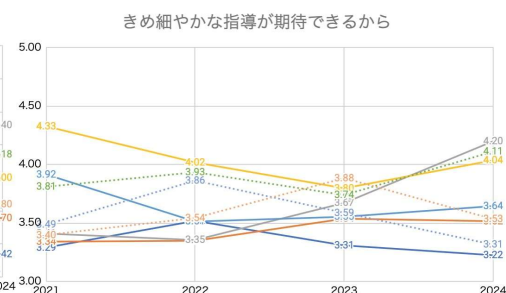
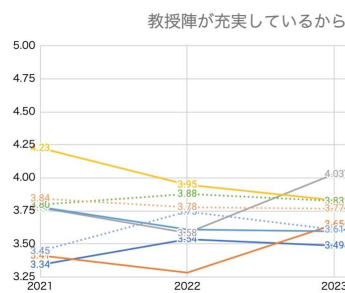
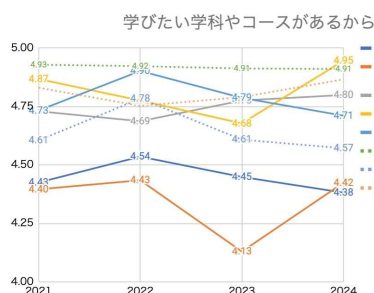
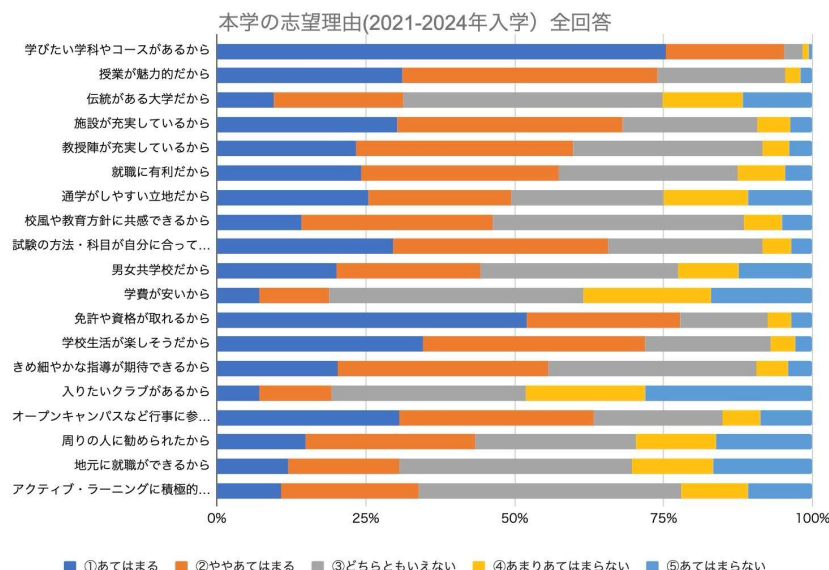
休退学予防への知見 一新入生アンケート結果から一

18歳人口の減少に伴い、より「学生に選ばれる大学」になるべく魅力を備える必要性が高まっている。本学では「学科を超えた分野横断の学び」、「地域で学ぶ 地域と学ぶ」、「学生が躍動するキャンパス」というスローガンを掲げ募集活動を行っている。第三者による本学の受験意向調査によると、「資格・職業に向けた学び」や「サポートの手厚さ」を重視しているがその評価が低い。「学生が楽しそう」といった抽象的イメージは伝わっているが「就職率が高い」という評価は他大学に比べると低い結果が示されている。2021年から2024年に入学者に対して行った志望理由に関するアンケートを解析することにより、学生募集における課題考察を行なった。同じ設問を活用して2021年に大学入学、2023年に短期大学部に入学した学生の学籍異動データと志望理由に関するアンケートを解析し休退学防止への考察も併せて行なった。

<入学志望アンケート>

19の質問に対して学科ごとに経年変化を解析・考察を行った。「教授陣が充実しているから」・「学びたい学科やコースがあるから」の回答をみると、子ども発達教育学科・幼児教育科・社会臨床心理学科の評価が高かった。「授業が魅力的だから」の問いでは、消極的評価の減少が見られた。「施設が充実しているから」・「きめ細やかな指導が期待できるから」・「免許や資格が取れるから」などは、学科ごとに評価が分かれた。「伝統がある大学だから」、「学費が安いから」・「アクティブ・ラーニングに積極的に取り組んでいるから」や「入りたいクラブがあるから」の問いでは評価が低かった。

学科ごとの経年変化を見ると、言語文化学科・子ども発達教育学科・管理栄養学科・幼児教育科は特徴の変化は見られない。一方、美術科・社会臨床心理学科・マスコミュニケーション学科は年度ごとに特徴が見られる結果となった。



<休退学考察>

2024年春に卒業した卒業生(343名)と退学者(73名)について、新入生アンケートの比較考察を行なった。「①あてはまる」と「②ややあてはまる」の肯定的評価の割合を比較すると、卒業生の方が高い。「通学しやすい立地だから」・「学費が安いから」・「オープンキャンパスなどの行事に参加して魅力的だったから」・「周りの人に勧められたから」の4つの問いは逆に、卒業生の回答割合が高い結果であった。卒業生と退学者のヒートマップをみると、卒業生は肯定的評価の割合が高く、退学者は「③どちらともいえない」の割合が高いことが判明した。

卒業生のヒートマップ(n=343)					退学者のヒートマップ(n=73)					
①あてはまる	②ややあてはまる	③どちらともいえない	④あまりあてはまらない	⑤あてはまらない	項目	①あてはまる	②ややあてはまる	③どちらともいえない	④あまりあてはまらない	⑤あてはまらない
75.2	20.4	2.9	0.9	0.6	学びたい学科やコースがあるから	65.8	23.3	6.8	0.9	1.4
28.4	47.6	19.8	2.1	2.1	授業が魅力的だから	25.7	37.1	30.0	2.1	2.9
28.9	36.6	24.8	5.0	4.7	伝統がある大学だから	28.6	34.3	28.6	5.0	1.4
28.9	36.6	24.8	5.0	4.7	施設が充実しているから	28.6	34.3	28.6	5.0	1.4
23.1	38.2	29.9	4.1	4.7	教授陣が充実しているから	24.3	25.7	42.9	4.1	2.9
22.0	35.0	31.8	8.6	2.7	就職に有利だから	21.4	22.9	42.9	8.6	7.1
24.5	23.9	26.8	11.8	13.0	通学しやすい立地だから	25.4	29.6	22.5	11.8	8.5
12.4	34.9	39.6	7.1	5.9	校風や教育方針に共感できるから	11.3	28.2	49.3	7.1	4.2
29.6	36.1	27.2	4.4	2.7	試験の方法・科目が自分に合っていたから	29.6	32.4	25.4	4.4	4.2
19.4	26.1	34.9	8.5	11.1	男女共学校だから	21.4	24.3	31.4	8.5	11.4
6.2	10.4	44.7	22.8	16.0	学費が安いから	8.6	11.4	42.9	22.8	18.6
51.2	26.3	15.4	5.0	2.1	免許や資格が取れるから	44.3	24.3	22.9	5.0	2.9
30.6	40.9	22.1	4.1	2.4	学校生活が楽しそうだから	39.4	26.8	23.9	4.1	4.2
23.1	38.3	28.5	5.6	4.5	きめ細やかな指導が期待できるから	17.1	27.1	44.3	5.6	4.3
6.8	14.5	30.1	20.6	28.0	入りたいクラブがあるから	10.0	10.0	40.0	20.6	22.9
25.7	35.2	20.7	7.4	10.9	オープンキャンパスなど行事に参加して魅力的だったから	26.1	36.2	20.3	7.4	7.2
13.6	27.2	27.5	13.0	18.6	周りの人に勧められたから	16.9	29.6	29.6	13.0	11.3
9.5	21.3	37.6	13.6	18.0	地元で就職ができるから	11.4	17.1	48.6	13.6	11.4
7.7	27.5	39.9	13.0	11.8	アクティブ・ラーニングに積極的に取り組んでいるから	7.1	22.9	47.1	13.0	5.7

<まとめ>

本学の志望理由のアンケートを解析し、学びたい内容や授業の魅力に対する評価が高いことが確認された。一方、免許や資格取得ときめ細やかな指導については、学科ごとに評価が分かれている。評価が十分ではない学科はオープンキャンパスなどでPRすることにより評価が好転する余地があると考えられる。休退学の対策として「細やかな指導」、「授業の魅力」、「学費に対する説明」などが候補としてあがった。

令和7年度 学生モニター意見交換会の実施

学生モニター意見交換会は、大学・短期大学部の教育改善および教育活動への学生の参画を目的として令和7年10月28日（火）および10月29日（水）に実施しました。各学科・コースから学年ごとに1名、計31名の学生がモニターとしていずれかの日程に参加しました。意見交換はワールドカフェ形式で行われました。ワールド・カフェとは、その名の通り

『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法の一つです。今年度は次の4つのテーマを設定し、それぞれのテーブルで意見交換を行いました。

1. 学生が躍動するために
2. 本学の広報への意見と学生が求める情報と媒体
3. 休退学予防の本学の実践への意見
4. ICTやAI

いずれのテーブルでも、活発な意見交換が行われました。今年度は宮谷学長も各テーブルを回り、学生の声を直接聞いておりました。学生から出てきた意見には次のようなものがありました。まず、「1. 学生が躍動するために」については、「一人では躍動しにくいので、仲間ができるような機会がもっとあれば」、「そもそも“躍動する”にはどうすれば良いかわからない」などの意見が出ていました。「2. 本学の広報への意見と学生が求める情報と媒体」については、「広報として、いろんな媒体で広報活動をするとういのは良いのでは」、「大学の日常の様子が見えるような動画をSNSにアップすると良いのでは」などの意見がありました。「3. 休退学予防の本学の実践への意見」については、「入学前から人間関係ができており、そのまま固定化している」という問題や、「学科内での縦のつながりを作る機会が欲しい」、あるならそういった情報を知りたい」といった要望がありました。「4. ICTやAI」に関しては、「Excelを活用する授業が少なく、「情報リテラシーの授業で“できる気”になったものの、その後活用する機会がなく定着しない」などの意見が出ました。

これらの意見はセンターで取りまとめ、関係する部署に送り、回答や対応の検討をしていただいています。今後、回答や対応を集約し、学内に掲示したり、Hi!wayを通じて周知する予定です。本学では今後も学生の声を聴きながら改善を進めていきます。

教育研究開発センター評価・IR部門 田崎 慎治



選択型FD「研究活動ミニ講座」の実施

【概要】

一昨年実施していた「ICTミニ講座」と同様、希望者を対象にしたミニ講座を今年度も実施しました。テーマは「研究」。本学の教員の研究力の向上を目的として、研究や論文執筆、外部資金獲得について、本学社会臨床心理学科の吉田弘司教授と子ども発達教育学科の森川敦子教授のお二人を講師にお招きし、自由に質問するシンポジウムに近い形式で実施しました。

【結果】

13名（127人中：約10人に1人）の教職員が参加しました。参加者からの事後アンケートの結果では、全員が満足度に関して肯定的な回答でした。具体的な記述では、「研究への向き合い方について、お聞きできたのは貴重でした。」「講師のお二人の研究に対する姿勢や方法、色々な本音のところが伺えてとても励みになりました。こういう話を聴く機会が全然ないのでとても嬉しく、今後とも先生方と色々話をしていきたいと思いました。」「他の先生ともお話ができたこと（がよかった）」と、大変参考になったようです。今後も継続して実施していきたいと思います。



教育研究開発センター評価・IR部門長 中村 孝

当センターの略語 CHIE (Center for the study of Hijiya Institutional Research and Educational Development)は日本語の“知恵”“とかけて、シンクタンクとしての機能を表現した。

比治山大学・比治山大学短期大部 教育研究開発センター
CHIE Center for the Study of Hijiya Institutional Research and Educational Development

〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1 TEL : 082-229-0122(代) FAX : 082-229-5100
E-mail:koutouk@hijiya-u.ac.jp